

エコアクション21

環境経営レポート

活動期間：2022年12月1日から2023年11月30日まで



発行日：2024年2月26日

東洋通信工業株式会社

〒452-0803

名古屋市西区大野木二丁目18番1

TEL:052-505-9011 FAX:052-505-9010

URL <https://toyotsushin.co.jp>

目 次

1. 組織概要・対象範囲	2 頁
2. 実施体制	3、4 頁
3. 環境経営方針	5 頁
4. 環境経営計画と環境経営目標及び実績	6 頁
4.1 環境経営計画	
4.2 環境経営目標（3 期分）	7 頁
4.3.1 環境経営計画の実績	8 頁
4.3.2 環境経営目標の実績	9 頁
4.4 環境負荷の状況（過去 3 期分）	10 頁
5. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無	11 頁
6. 代表者による全体評価と見直しの結果・指示	12 頁
7. 環境経営計画における次年度からの取組	12 頁
8. 社会貢献活動	12 頁

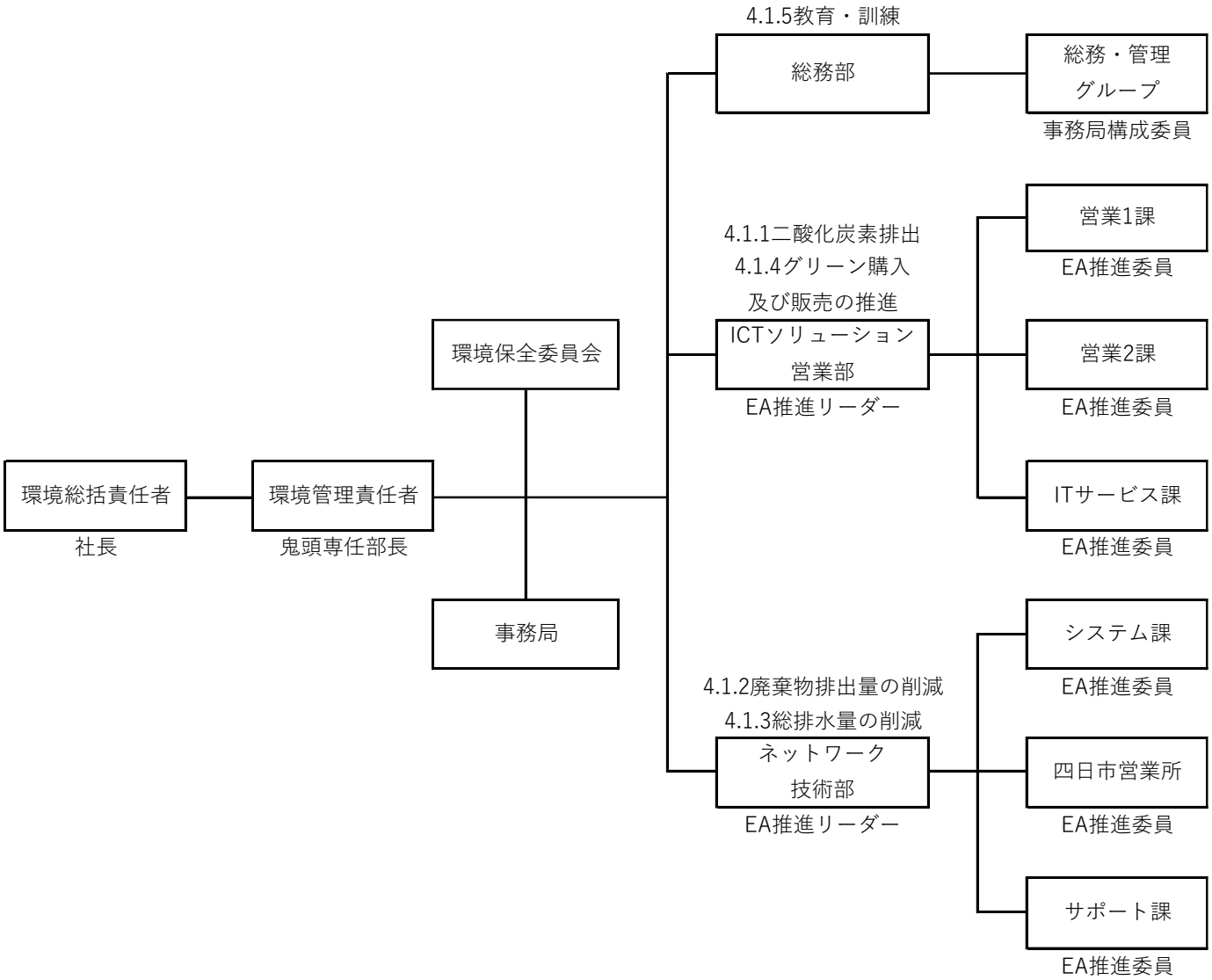
1. 組織概要・対象範囲

商号	東洋通信工業株式会社
設立	1956年（昭和31年）2月10日
資本金	18,165千円
事業年度	12月1日～11月30日
建設業 許可番号	国土交通大臣許可（一般）第324号
事業内容	情報通信のネットワークインフラの運用提案販売及び工事・保守
年商	7億0,100万円（2023年11月末）
代表者	代表取締役 馬場 隆一
本社	〒452-0803 名古屋市西区大野木二丁目18番1 TEL052-505-9011 FAX052-505-9010 URL https://toyotsushin.co.jp
四日市 営業所	〒510-0065 三重県四日市市中浜田町3番7号 TEL059-352-7703 FAX059-352-7702
総人員	44名（2023年11月末）
取引銀行	三十三銀行・名古屋銀行・商工中金・三井住友銀行・三菱UFJ銀行
対象範囲	全組織・全活動（本社 41名 四日市 3名）

2. 実施体制

組織の役割、責任及び権限

令和 5 年 11 月 30 日現在



1. 環境総括責任者（社長）

- ①環境マネジメントシステムの統括的な責任と権限を有する。
- ②環境マネジメントに必要な経済資源を用意する。
- ③環境管理責任者を任命する。

2. 環境管理責任者（鬼頭専任部長）

- ①環境マネジメントに関する構造及び運用責任及び権限を有する。
- ②環境総括責任者に環境マネジメントシステムの実績を報告する責任を有する。

3. 環境保全委員会

- ①環境総括責任者を委員長として、環境管理責任者、エコアクション推進リーダー、事務局で構成する。
- ②開催は年1回とし、委員長が必要と認めた場合は臨時に開催できる。
- ③活動計画、目標の達成状況、環境関連の法規則の遵守状況等を確認し、是正、評価を行う。
- ④中長期目標を設定する。

4. エコアクション(EA)推進リーダー

各部署の所属長をリーダーとし、各部署に割り当てられた 4.1.1 から 4.1.5 の環境活動項目の推進責任者とする。

5. エコアクション(EA)推進委員

各環境活動項目を推進する。

6. 事務局

事務局長を木村部長とし、下記の事項を行う。

- ①環境マネジメントシステムの構築及び維持を行う。
- ②環境保全委員会の議長と事務局を担当する。
- ③環境活動の進捗状況の確認を行う。
- ④活動の取り組み状況を社内外に公表するための取り纏めを行う。

3. 環境経営方針

環境基本理念

当社は、情報通信技術を核に、I P ネットワークシステムの提案、工事、保守を通じて、お客様のニーズに応えるとともに、かけがえのない地球の環境を大切に、積極的に環境保全に配慮した活動を行います。

環境行動指針

1. 環境目的及び目標を定め、定期的に見直し、汚染の予防と汚染の改善及び当社の環境活動の仕組みの継続的改善に努めます。
2. SDGs（エスディージーズ）の持続可能な開発目標にある活動を推進します。
3. 環境関連法令・条例・当社が同意するその他の要求事項を遵守します。
4. 地球温暖化防止・省エネルギー活動の推進に努めます。
5. 分別回収によるリサイクル活動を推進し、廃棄物の削減に努めます。
6. 地域社会貢献に努めます。
7. 環境方針は文書化し当社社員及び会社に関係する全ての人々に周知します。

制定月日	2006年11月08日
2版改訂月日	2009年12月01日
3版改定月日	2014年02月01日
4版改定月日	2019年12月01日

東洋通信工業株式会社
代表取締役 馬場 隆一

4. 環境経営計画と環境経営目標の実績及び評価

4.1 環境経営計画

項 目		具体的取組内容
4.1.1 二酸化炭素 排出量の削減	1) 電気使用量	照明の休憩時等不必要時の消灯
		PC の省電力設定、電源プランで稼働時間の短縮設定
		退社時の PC シャットダウン
		給湯器は、5 月～10 月 OFF、11 月～4 月は 60℃設定
		電気ポット使用は 11 月～5 月、保温温度 80℃
		常時稼動エアコンのフィルタは 3 ヶ月に 1 度 3 月・6 月・9 月・12 月清掃
		換気扇の適宜の ON・OFF
		ブラインドやカーテンでの熱の調整
		クールビズ・ウォームビズの実施
	2) ガソリン 使用量	エンジンをかけたらずぐアクセルを踏まない (5 秒で時速 20km に達するのが目安)
		急発進・急加速・空ぶかしの排除
		カーエアコンのこまめな調整
		減速、停止時は早めにアクセルオフ 時速 50km の場合は停止線から 200m 時速 60km の場合は 300m 手前を目安
		休憩時等にエンジンをかけての休息をしない
		タイヤの空気圧の適正維持
		エコカーの導入
4.1.2 廃棄物排出量の 削減	1) 一般廃棄物 のリサイクル 及び削減	裏紙使用、使用済封筒の活用
		ごみの分別
		現場での廃棄物の分別
		書類のペーパーレス化
	2) 産業廃棄物 の抑制及び リサイクル	マニフェストによる適正処理
		線材くずのリサイクル 現場からの撤去品のリサイクル
4.1.3 水使用量の削減	上水	手洗い、洗い物時の節水
		トイレの水洗レバーは、常に「小」側に倒す
4.1.4 グリーン購入及び販売の推進		省エネ基準適合商品の購入及び販売
4.1.5 教育・訓練		毎期 7 月に実施

*4.1.1 は SDGs 目標の 13：気候変動に具体的な対策を 4.1.2 は SDGs 目標の

14：海の豊かさを守ろう 4.1.4 は SDGs 目標の 12：つくる責任、使う責任 を表す

4.2 環境経営目標（3期分） 削減率は基準値(68期)から每期3%

70期以降は每期1%の削減を目標とする

項 目			単 位	基準値 2022年 (68期)	2023年 (69期)	2024年 (70期)	2025年 (71期)	
二 酸 化 炭 素 排 出 量	電力使用量	本社	KWh	39,922	38,724	38,325	37,926	
		☆四日市		4,267	4,267	4,267	4,267	
		☆三河		895	895	895	895	
		合計		45,084	43,886	43,487	43,088	
			Kg-CO2	21,865.74	21,284.87	21,091.25	20,897.63	
	ガソリン 使用量	本社	ℓ	26,586.85	25,789.24	25,523.38	25,257.51	
		四日市		3,655.94	3,546.26	3,509.70	3,473.14	
		合計		30,242.79	29,335.51	29,033.08	28,730.65	
		Kg-CO2	70,163.27	68,058.37	67,356.74	66,655.11		
二酸化炭素総排出量				92,029.01	89,343.25	88,448.00	87,552.74	
廃棄物 排出量		可燃・不燃ごみ		円／人数	536	520	514	509
		資源ごみ			692	671	664	657
		産廃	プ ラスチック	Kg	2,631	2,552	2,526	2,499
			金属屑		287	278	276	273
水 使 用 量	本社	☆上水	m³	178.0	172.7	170.9	169.1	
	四日市			18.0	17.5	17.3	17.1	
	合計		m³／人数	4.36	4.22	4.18	4.14	
		(社員数)	人	46名	46名	46名	46名	
グリーン購入 及び販売の推進		N社		仕入高	100.2	103.2	104.2	105.2
		I社			(11.9)	-	12.1	12.2
		S社			(52.6)	-	53.1	53.6
		合計			100.2(164.7)	103.2	169.4	171.0

- ・電力(中部電力)の平成27年度(2015年)のCO₂排出係数 0.485 kg-CO₂/kWh
- ・ガソリンのCO₂排出係数 2.32 kg-CO₂/ℓ
- ・グリーン購入はN社、I社、S社のグリーン機器類の仕入高
- ・70期よりI社、S社の仕入高も目標を定め管理する。
- ・化学物質は使用していませんので設定していません
- ・☆の個所は、維持管理目標
- ・項目の()は原単位のための数値
- ・12頁の7. 環境活動計画における次年度からの取組参照
- ・68期は2021.12.1～2022.11.30、69期は2022.12.1～2023.11.30、70期は2023.12.1～2024.11.30、71期は2024.12.1～2025.11.30
- ・今回の対象期間は68期（2021.12.1～2022.11.30）の結果を新たな基準として目標設定をした。

4.3.1 環境経営計画の実績

項 目		具体的取組内容	評価
4.1.1 二酸化炭素 排出量の削減	1) 電気使用量	照明の休憩時等不必要時の消灯	○
		P Cの省電力設定、電源プランで稼働時間の短縮設定	○
		給湯器は、5 月～10 月 OFF、11 月～4 月は 60℃設定	○
		電気ポット使用は 11 月～5 月、保温温度 80℃	○
		常時稼動エアコンのフィルタは 3 ヶ月に 1 度(3 月・6 月・9 月・12 月)清掃	○
		換気扇の適宜の ON・OFF	×
		ブラインドやカーテンでの熱の調整	○
		クールビズ・ウォームビズの実施	○
	2) ガソリン 使用量	エンジンをかけたらすぐアクセルを踏まない(5 秒で時 速 20km に達するのが目安)	○
		急発進・急加速・空ぶかしの排除	○
		カーエアコンのこまめな調整	△
		減速、停止時は早めにアクセルオフ 時速 50km の場合は停止線から 200m 時速 60km の場合は 300m 手前を目安	△
		タイヤの空気圧の適正維持	○
		エコカーの導入	○
4.1.2 廃棄物排出量の 削減	1) 一般廃棄物 のリサイクル 及び削減	裏紙使用、使用済封筒の活用	○
		ごみの分別	△
		現場での廃棄物の分別	○
		書類のペーパーレス化	○
	2) 産業廃棄物 の抑制及びリ サイクル	マニフェストによる適正処理	○
		線材くずのリサイクル	○
4.1.3 水使用量の削減	上水	手洗い、洗い物時の節水	○
		トイレの水洗レバーは、常に「小」側に倒す	○
4.1.4 グリーン購入及び販売の推進		省エネ基準適合商品の購入及び販売	○
4.1.5 教育・訓練		每期 7 月に実施	○

・評価は、具体的取組内容に対し取組程度を○：達成できた △：活動にばらつきがある
×：達成できなかったで表記した。

4.3.2 環境経営目標の実績

項 目				単 位	基準値	目標	実績	目標値と 実績の 増減%	評 価	
					2022年 68期	2023年 69期				
二 酸 化 炭 素 排 出 量	電力使用量	本社		KWh	39,922	38,724	41,031	6.0%	×	
		☆四日市			4,267	4,267	4,073	-4.5%	—	
		☆三河			895	895	833	-6.9%	—	
		合計			45,084	43,886	45,937	4.7%	×	
	ガソリン 使用量			Kg-CO2	21,865.74	21,194.50	22,279.45	5.1%	×	
		本社		ℓ	26,586.85	25,789.24	25,311.21	-1.9%	○	
		四日市			3,655.94	3,546.26	2,580.32	-27.2%	○	
		合計			30,242.79	29,335.50	27,891.53	-4.9%	○	
				Kg-CO2	70,163.27	68,058.36	64,708.35	-4.9%	○	
	(車両台数)		台	32	33	32	—	—		
二酸化炭素総排出量				Kg-CO2	92,029.01	89,252.86	86,987.79	-2.5%	○	
廃棄物 排出量			可燃・不燃ごみ		円／人数	536	520	620	19.2%	△
			資源ごみ			692	671	736	9.7%	△
			産廃	プラスチック	Kg	2,631	2,552	2,179	-14.6%	○
				金属屑		287	278	18	-93.5%	○
水 使 用 量	本社	☆上水		m³	178.0	172.7	184.0	6.5%	—	
	四日市				18.0	17.5	18.0	2.9%	—	
	合計					m³／人数	4.36	4.22	4.49	6.4%
		(社員数)		人	46名	46	44名	—	—	
グリーン購入及び販売の推進				仕入高	100.2	103.2	103.5	0.3%	○	

- ・ 電力(中部電力)の平成 27 年度(2015 年)の CO₂ 排出係数 0.485 kg-CO₂／kWh
- ・ ガソリンの CO₂ 排出係数 2.32 kg-CO₂／ℓ
- ・ 仕入高の単位は百万円
- ・ グリーン購入は N 社のグリーン機器類の仕入高
- ・ 評価は、目標に対し達成できた場合○、ばらつきがある場合△、達成できなかった場合×、—は評価せず（単位と別の表記の項目あるいはどちらか一方で評価済み）
- ・ 化学物質は使用していませんので設定していません
- ・ ☆の個所は、維持管理目標
- ・ 項目の()は原単位のための数値
- ・ 68 期は 2021.12.1～2022.11.30、69 期は 2022.12.1～2023.11.30

4.4 環境負荷の状況（過去 3 期分）

項 目				単 位	2021年 67期	2022年 68期	2023年 69期
二酸化炭素排出量	電力使用量	本社		KWh	42,033	39,922	41,031
		四日市			4,071	4,267	4,073
		三河			1,169	895	833
		合計			47,273	45,084	45,937
			Kg-CO2	22,927.41	21,865.74	22,279.45	
	ガソリン 使用量	本社		ℓ	28,082.70	26,586.85	25,311.21
		四日市			3,386.54	3,655.94	2,580.32
		合計			31,469.24	30,242.79	27,891.53
				Kg-CO2	73,008.64	70,163.27	64,708.35
	(車両台数)		台	32	32	32	
二酸化炭素総排出量			Kg-CO2	95,936.04	92,029.01	86,987.80	
廃棄物 排出量		可燃・不燃ごみ		円／人数	749	536	620
		資源ごみ			684	692	736
		産廃	プラスチック	Kg	2,765	2,631	2,179
			金属屑		777	287	18
水 使用 量	本社	上水		m³	187.0	178.0	184.0
	四日市				18.0	18.0	18.0
	合計			m³／人数	4.56	4.36	4.59
		(社員数)		人	46	46	44
グリーン購入及び販売の推進				仕入高	152.3	100.2	103.5

- ・ 電力(中部電力)の平成 27 年度(2015 年)の CO₂ 排出係数 0.485 kg- CO₂／kWh
- ・ ガソリンの CO₂ 排出係数 2.32 kg- CO₂／ℓ
- ・ 売上高、仕入高の単位は百万円
- ・ グリーン購入は N 社の機器類の仕入高
- ・ 化学物質は使用していませんので設定していません
- ・ 67 期は 2020.12.1～2021.11.30、68 期は 2021.12.1～2022.11.30
69 期は 2022.12.1～2023.11.30

5. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無

適応される法律と対応

法令等の名称		対象及び要求事項	遵守状況 確認	確 認
1	消防法	防火 ・消防設置場所・火の始末、消灯、施錠	最終 退出者	○
2	廃棄物処理法	保管場所、保管状態 廃棄物指定業者への引渡し ・マニフェストの処理、管理及び6月 末迄の知事への状況報告	事務局	○
3	フロン排出抑制法	業務用エアコンの簡易点検		○
4	リサイクル法	指定再資源化製品(小型二次電池) ・ニッケル、カドミウム電池 ・ニッケル水素電池・リチウムイオン電池 ・小型シール鉛蓄電池		○
5	家電リサイクル法	特定家庭用機器再商品化等 ・ユニット形エアコン ・ブラウン管式テレビ ・電気冷蔵冷凍庫 ・電気洗濯機		該当なし
6	自動車リサイクル法	使用済自動車		
7	産業廃棄物等の適正な処理及び資源化の促進に関する条例 (名古屋市)	廃棄物の減量及び適正処理		○
8	市民の健康と安全を確保する 環境保全に関する条例	アイドリングストップ		○
9	三重県環境保全に関する条例	アイドリングストップ	四日市(営)	○

* 法制度の最新状態維持のため上期(5月)、下期(11月)事務局により確認した場合、確認欄に○を表記、されなかった場合は×を表記
環境関連法規への違反、訴訟、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありません。

6. 代表者による全体評価と見直しの結果・指示

環境に大きな負荷をかける二酸化炭素排出量は、全社の電力使用量において目標値 43,886kWh に対し実績 45,937kWh で 2,051kWh 約 4.7%上回った。

四日市、三河は維持管理目標としているが、目標値よりそれぞれ-4.5%、-6.9%と下回っている。

総合的に 1,084.95kWh 増えており、本社の活動においては検討する余地がある。

又、ガソリンは、合計目標値 29,335.5ℓに対し実績値 27,891.53ℓと 1,443.97ℓ削減できたが、四日市が 965.94ℓ(27.2%)大きく下回ったのは、売上が影響していると思われる。二酸化炭素総排出量はガソリン使用量の達成率が高かった為、-2.5%減となった。

可燃・不燃ごみと資源ごみ合わせ一人当たり 165 円増だが、原単位の人数が減った為の影響と思われる。

産廃の金属屑 260Kg 減り、産廃のプラスチックも 373Kg 減り目標値を下回った。有価物として処理している為と思われる。

水の使用量は毎年ほぼ同じ量で推移しているが、今回は 6.4%目標値より上回った。こちらも原単位の影響があると思われる。

グリーン購入は、目標値を達成している。

来期も、維持管理目標とし、実施体制を組織変更に伴い変更する。

2024 年 2 月 15 日

東洋通信工業株式会社

代表取締役 馬場 隆一

7. 環境経営計画における次年度からの取組

維持管理に活動を切替えつつあり、電力は増えているが、ガソリン使用量は前年より削減傾向になっている。エコカー推進を継続し CO2 削減に貢献したい。

グリーン購入については機器仕入先の 2 社購入データを新たに目標と定め管理してゆく

マンネリにならないよう問題を定義しつつ組織の役割に各部署を割り当てて実施してゆき、毎期 7 月の教育訓練でも工夫して行っていく。

8. 社会貢献活動

毎月第一水曜日、地域清掃活動を実施、参加者が増えてきたので、社内の清掃にも振り分けた。

① 12 月 7 日 33 名参加	⑦ 6 月 7 日 33 名参加
② 1 月 11 日 39 名参加	⑧ 7 月 5 日 35 名参加
③ 2 月 8 日 34 名参加	⑨ 8 月 2 日 32 名参加
④ 3 月 8 日 33 名参加	⑩ 9 月 13 日 33 名参加
⑤ 4 月 5 日 37 名参加	⑪ 10 月 11 日 35 名参加
⑥ 5 月 10 日 35 名参加	⑫ 11 月 8 日 35 名参加